

攻めの農林水産業」の内容が明らかに

～耕作放棄地の防止・解消目指して動き出す

アベノミクス3本の矢の一つである“成長戦略”で農業に焦点が当てられていることは衆知の通りだが、農水省はこの程、『攻めの農林水産業』具体化の方向を発表した。2月に開催された産業協力会議で提示された、攻めの農林水産業の3つの戦略方向、即ち、需要フロンティアの拡大、バリューチェーン構築、生産現場の強化について具体的に9課題を検討することとなったもの。このうち生産現場強化の具体策として、担い手への農地集積/耕作放棄地の発生防止・解消への抜本的強化が重点課題としてあげられている。

今回明らかになった農水省の政策では、耕作放棄地を含めて円滑な農地集積を図るために、中間的受け皿として都道府県毎に農地中間管理機構(仮称)を設置することとした。農地集積/耕作放棄地の抑制はかねてよりその必要性が認識され一部政策にも取り入れられてきたが、例えば現在の耕作放棄地は所有者に対して指導、通知、勧告、協議の手続きを踏まないで知事は強制的に利用権が設定出来ない等、地域地域それぞれの事情によりなかなか円滑に進んでいないのが実情といえる。今回、県農地中間管理機構を設置することで、法整備/予算措置/現場の話し合いをセットとし、より力強い形で推進する体制を整えようというものだ。農業生産の競争力向上にはやる気のある担い手への農地集積が、それが全てではないものの、重要な前提となることは論を待たないところ。今後の展開を期待したい。

担い手への農地集積/耕作放棄地の発生防止・解消の抜本的な強化

重点課題 生産現場の強化策

1. 農地集積、耕作放棄地解消に係る数値目標を設定。
2. 1を実現する政策手法
 農地の中間的受け皿(県農地中間管理機構(仮称))の整備・活用(法整備・予算措置・現場の話し合いをセットで推進)

出し手

借受け

地域内の分散し錯綜した農地利用を整理し担い手ごとに集約化する必要がある場合や、受け手がすぐに見つからない場合(耕作放棄地を含む)に、中間的な受け皿が借り受け

中間的受け皿は、必要な場合には、その負担で基盤整備等の条件整備を行い、担い手(法人経営・大規模家族経営・集落営農・企業)がまとまりのある形で農地を利用できるように配慮して、貸付け

中間的受け皿は、受け手が見つかるまでの間、当該農地について農地としての管理

中間的受け皿は、その業務の一部を市町村・農協・民間企業等に委託し、中間的受け皿を中心とする関係者の総力で農地集積・耕作放棄地解消を推進

中間的受け皿が積極的に活動できるよう国費を投入

貸付け

受け手

耕作放棄地対策の強化

既に耕作放棄地となっている農地のほか、耕作していた所有者の死亡等により耕作放棄地となるおそれのある農地(耕作放棄地予備軍)も対策の対象とする。

農業委員会は、所有者に対し、中間的受け皿に貸す意思があるかどうかを確認することから始める事とする等、手続の大幅な改善・簡素化により、耕作放棄状態の発生防止と速やかな解消を図る。

農地の相続人の所在がわからないこと等により所有者不明となっている耕作放棄地については、公告を行い、都道府県知事の裁定により中間的受け皿に利用権を設定。

自然から学ぼう 農事暦 「雪形」

雪形とは雪解けと共に標高の高い山に現れる様々な模様をいう。古くから農家は雪形を見て種まきや田植えの作業を決めたものであり自然現象を良く観察して農業に生かすことを「農事暦」として採用していた。昨今は高温、ゲリラ豪雨、豪雪など毎年異常気象と呼ばれる事象が発生している。現代の農業において自然現象から農作業に対応出来る言い伝えが生かされているのでしょうか？

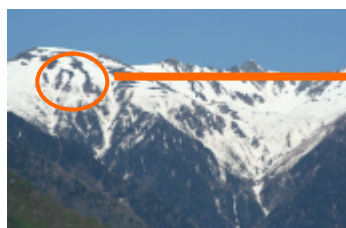
長野県北アルプス 白馬岳の代馬

代掻きを始める頃に雪形が出てくることから古来より代掻きの目安として来ました。「代掻き山 = 代馬き山」と呼ばれ代馬ヶ山が白馬岳と呼ばれるようになりました。



長野県中央アルプス 南駒ヶ岳 稗まき爺

この雪形を「盆踊り娘」と紹介したことがきっかけで「稗まき爺」ではないかとの論争も起こるほど地元では慣れ親しんでいる雪形。雪形が早く現れたり、遅かったりとまちまちでこの雪形を目安に種をまくことが理に叶っているという。



現場探報 今年の春は早く訪れた！？

今年の桜前線は例年より長い時間をかけて日本列島をゆっくりと北上している。現在、桜前線は北海道にあり札幌では、統計開始以来2番目に遅いソメイヨシノの開花となっているようだ。平年では桜前線は3ヶ月半程で駆け抜けていくようだが、今年は沖縄・九州・関東までは記録的な速さで開花したにも関わらず東北で停滞したため4ヶ月半と最も長いお花見が楽しめている。

さて、こちらの写真は、今年の東京の春はおかしな気象であったことが伺えるスナップだ。この写真は通勤途中で通る2012年と2013年の同日4月12日に同じ場所で撮影された千代田区の半蔵濠から

望む皇居と国会議事堂の写真だ。読者の皆さんは今年の写真がどちらか分かりますか？今年の東京の春は桜が早く開花したと思っていたら4月は低温で作物の生育が鈍化し病害虫の発生も少なく推移した。5月の連休を過ぎたら初夏を思わせる



天気で関東地方では先週局地的な雷を伴う激しい雷雨に見舞われた。いったい今年の天気はどのような天候になるのでしょうか？現場で気づいたちょっとした気象に関する事象にも目を向けてお届けしたいと考えております。

(答え 左：2012年撮影 右：2013年撮影)

今回より不定期ではありますが古来より各地域にまつわる農業関連での事象についてご紹介出来ればと考えております。その他に前号よりご紹介しておりますがその地域でしか見られない特産物や現地取組み(自己PRも含めて)も紹介していきたいと考えております。弊社スタッフがご当地に訪問した際には是非とも情報のご提供を宜しくお願いいたします。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>